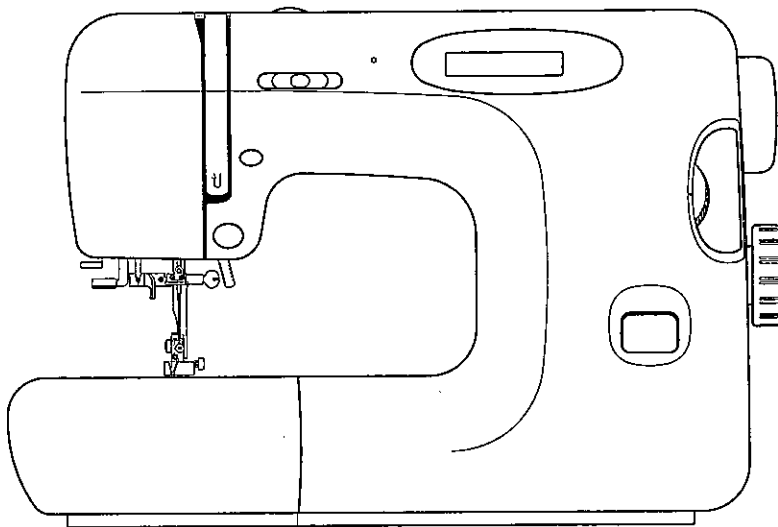


MOC18 - 751JE
5780

《取扱説明書》



JANOME

安全上のご注意

- ◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。 For use in japan only.

危害・損害の程度を表わす表示

 警告 この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	 注意 この表示の欄は「傷害を負う可能性および物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
--	---

本文中の図記号の意味

	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
	⊘記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
	●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

警告 感電・火災の恐れがあります。

 必ず実行 一般家庭用、交流電源 100 V でご使用ください。	 必ずプラグを抜く 以下のような時は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき 
---	---

注意 感電・火災・けがの原因となります。

 分解禁止 お客様自身での分解はしないでください。 	 必ず実行 お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用される時は、特に安全に注意してください。 
 接触禁止 ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべて動いている部分に手を近づけないでください。 	 必ず実行 以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。 ・押さえ、アタッチメントを交換するとき ・上糸、下糸をセットするとき
 禁止 ぬい中に布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。針が曲がり、針折れの原因になります。	 必ず実行 電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らずプラグを持って抜いてください。
 禁止 曲がった針はご使用にならないでください。 	 必ずプラグを抜く 以下のことをするときには、電源スイッチを切って電源プラグを抜いてください。 ・針、針板を交換するとき ・ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行ってください。） ・ミシンのお手入れを行うとき
 禁止 ミシンの通風口はふさがらないでください。また、プラグ受けに糸くずや、ほこりがたまるようにしないでください。	 必ずプラグを抜く ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてお買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水に濡れたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき
 禁止 フットコントローラー上に、物をのせないでください。	
 必ず実行 針および押さえは、確実に固定してください。また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。針が押さえにあたり、けがの原因になります。	
 必ず実行 ミシン操作時は、面板などのカバー類を閉じてください。	

目次

お取り扱いについてのお願い	2
各部のなまえ	3
標準付属品・補助テーブル	4

操作方法

●電源のつなぎ方	5
★スタート・ストップボタン使用のとき	5
★フットコントローラー使用のとき（オプション）	5
●スタート・ストップボタン	6
●スピードコントロールつまみ	6
●上下停針ボタン	6
●返しぬいレバー	6
●押さえ圧調節	7
●押さえのあげ方・さげ方	7
●送り歯のさげ方	7
●押さえの取りかえ方	8
●押さえホルダーの外し方、付け方	8
●針の取りかえ方	9
●糸と針の選び方	9
●下糸の準備	10~12
★糸こまの取りつけ	10
★ボビンの取り出し方	10
★下糸の巻き方	11
★ボビンのセット	12
●上糸の準備	13~15
★上糸のかけ方	13
★糸通しの使い方	14
★下糸の引き上げ方	15
●模様の選び方	16
●ぬい目のあらさ調節	16
●糸調子のとり方	17
★自動糸調子	17
★マニュアル糸調子	17
直線ぬい	18~20
●ぬい始め	18
●厚手の布端のぬい始め	18
●ぬい方向のかえ方	19
●ぬい終わり	19
●針板ガイドラインの利用	20

ジグザグぬい	21
ジグザグぬいたち目かがり	22
トリコットぬいたち目かがり	22
直線三重ぬい	23
伸縮ぬい	23
ボタンホール	24~26
芯入りボタンホール	27
ボタン付け	28
ファスナー付け	29~31
くけぬい（まつりぬい）	32
ピンタック	33
シェルタック	33
パッチワーク	34
アップリケ	34
キルティング	35
スカラップ	35
スーパー模様ぬい	36
スーパー模様の形の整え方	36
ししゅうぬい	37
フリーアームぬい	37

ミシンのお手入れ

●かまと送り歯の掃除	38
●内がまと針板の組み付け	39
●ランプの取りかえ方	39

ミシンの調子が悪いときの直し方

このたびはジャノメミシンをお買い上げいただき、ありがとうございます。

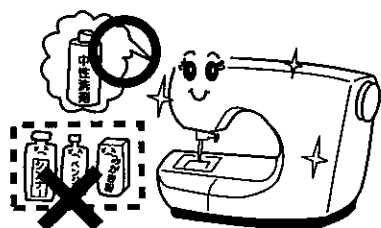
このミシンは、直線ぬいやジグザグぬいはもちろん、ホームソーイングに必要なぬいが簡単にできる家庭用電子ミシンです。

このミシンの特長をご理解していただき、正しくお使いいただくために、まずこの「ご使用の手びき」をお読みください。

「ご使用の手びき」は、保証書と共に大切に保管してください。

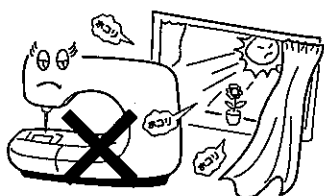
お取り扱いについてのお願い

ご使用の前に

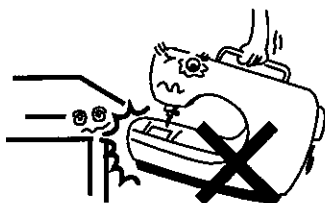


- ① ほこりや油などでぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよくふいてください。
- ② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は、絶対に使用しないでください。

いつまでもご愛用いただくために



- ① 長時間日光に当てないでください。
- ② 湿気やほこりの多いところは避けてください。

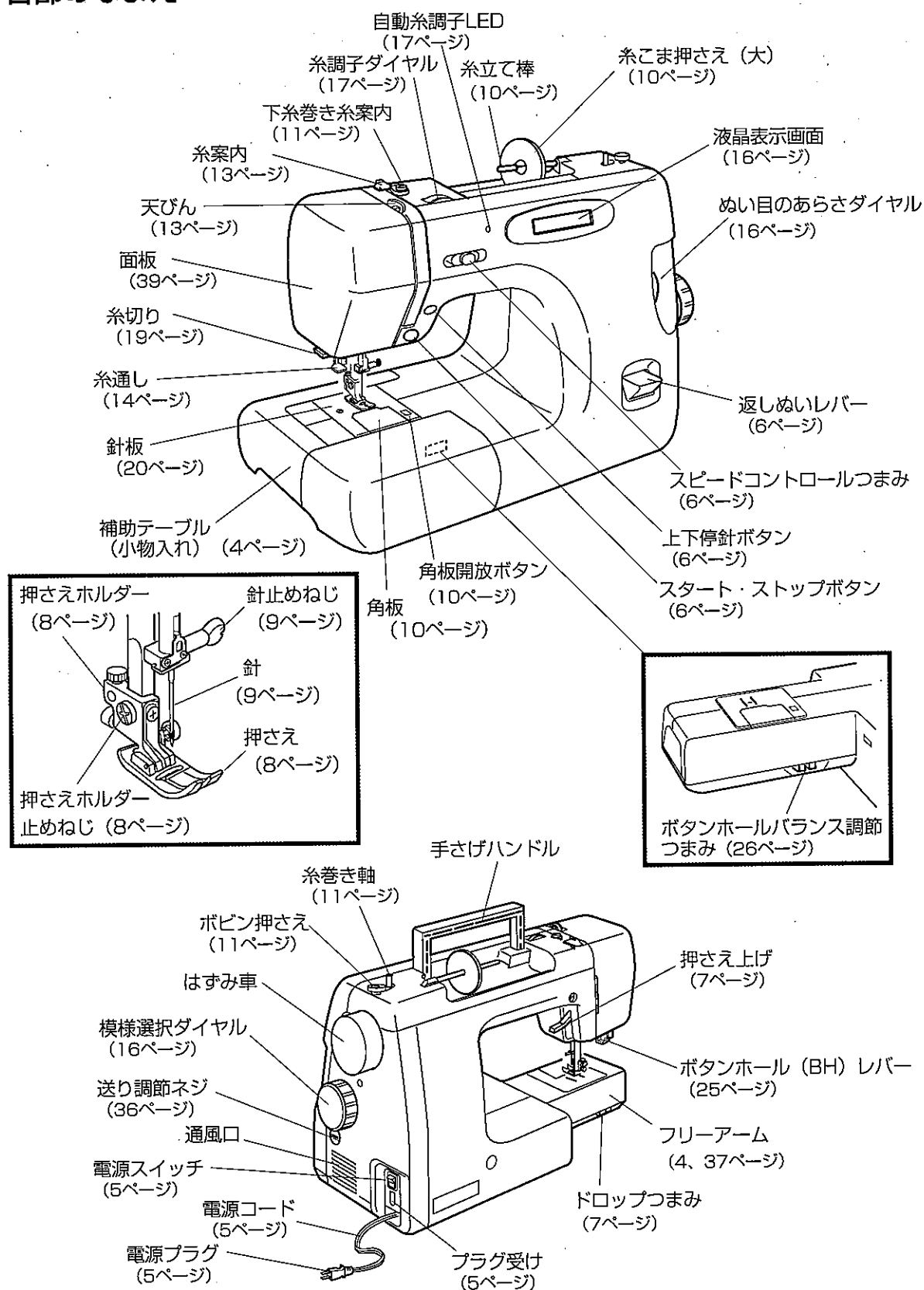


- ③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

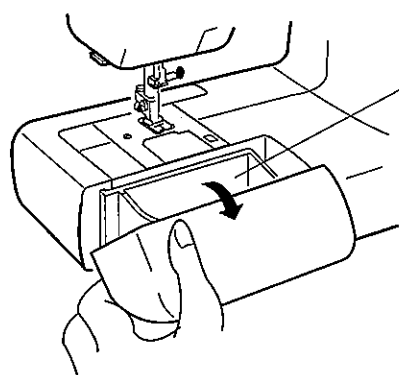
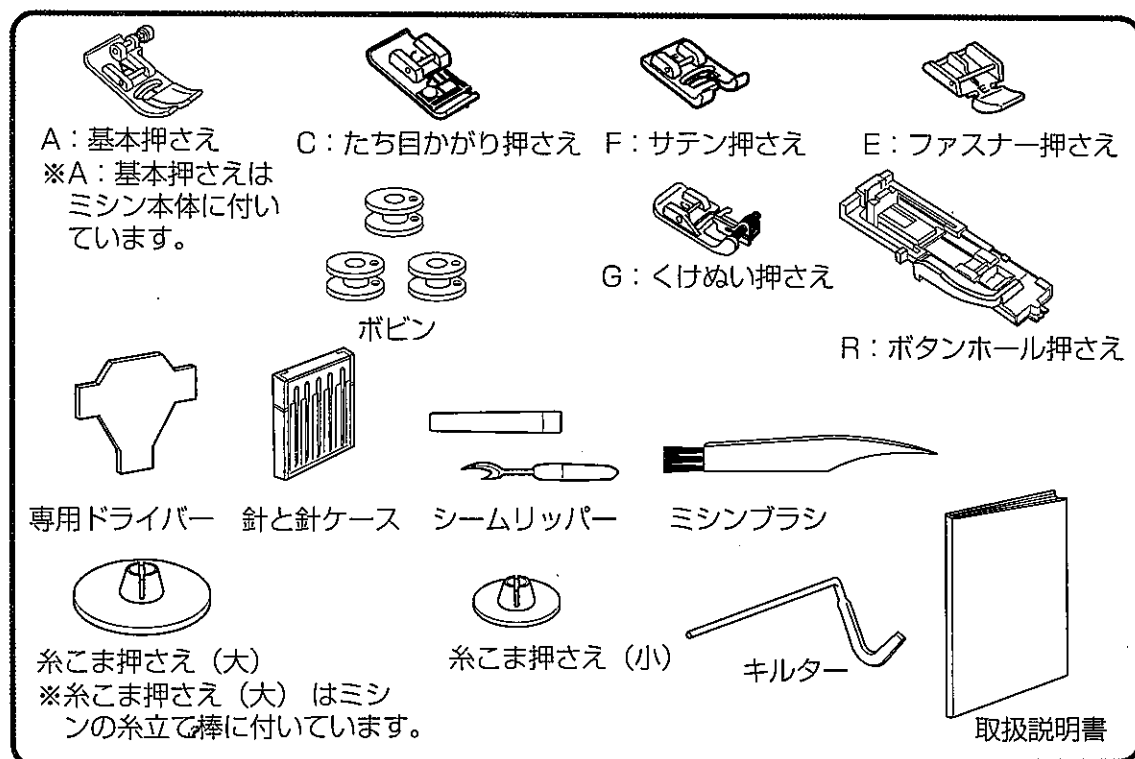
修理・調整についてのご案内

万一不調になったり故障を生じたときには、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(40 ページ) により点検・調整を行ってください。

各部のなまえ

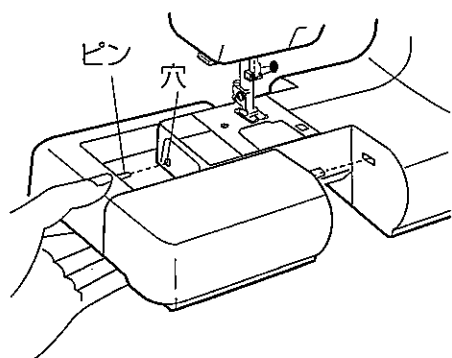


標準付属品・補助テーブル



補助テーブルをあけて
付属品を収納します。

【補助テーブルの外し方】



補助テーブルの下側に手をかけて、左に引いて
外します。

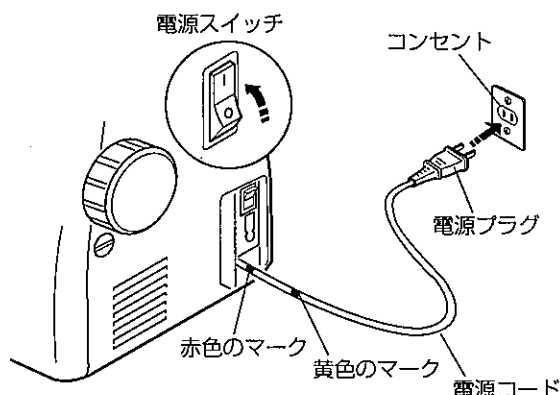
取り付けは、フリーアームにそわせ、ピンを穴
に入れ取り付けます。

操作方法

●電源のつなぎ方

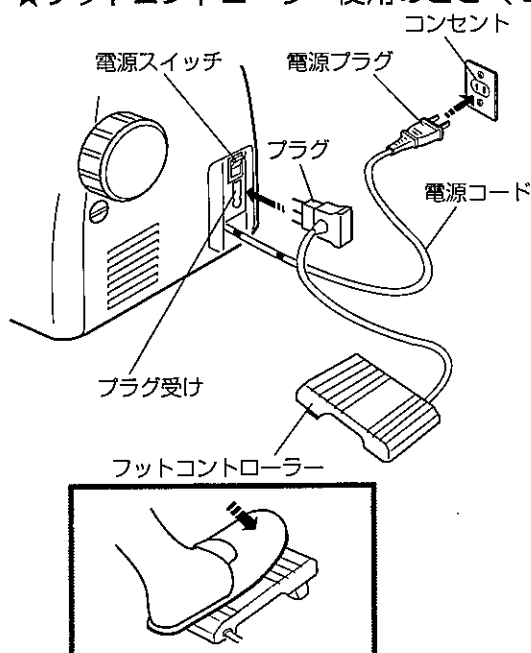
★スタート・ストップボタン使用のとき

電源スイッチ「**!**」マークは入
電源スイッチ「**○**」マークは切



※コードを引き出しすぎると断線の恐れがありますので、赤色のマーク以上は引きださないでください。
黄色のマークが出たら、まもなく赤いマークです。
※コードをしまうときは、コードを少し引っ張って、はなしてください。

★フットコントローラー使用のとき（モデルによりオプションになります。）



※フットコントローラーは、落としたり、座ぶとんの下において使用しないでください。

⚠ 警告

- 電源は一般家庭用交流電源（100V 50/60Hz）です。
- ミシンを使わないときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。
感電・火災の原因になります。

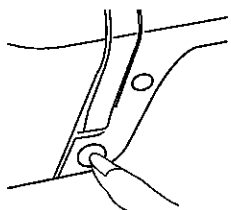
- ① 電源スイッチを切ります。
- ② 電源コードを引き出し、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- ③ 電源スイッチ入れます。

- ① 電源スイッチを切ります。
- ② フットコントローラーのプラグをプラグ受けに差し込みます。
- ③ 電源コードを引き出し、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- ④ 電源スイッチ入れます。

フットコントローラーを踏むとミシンがスタートし、強く踏み込むほどスピードが速くなります。踏み込みをはなすとストップします。

- ※ フットコントローラーを接続するとスタート・ストップボタンはきかなくなります。
- ※ スピードコントロールつまみは、最高スピードを調節します。
速くしたいときは、右（はやい）にセットしてください。（6ページをごらんください。）

● スタート・ストップボタン

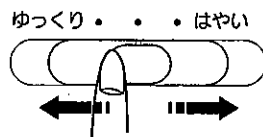


このボタンを押すたびにミシンはスタートとストップをくり返します。

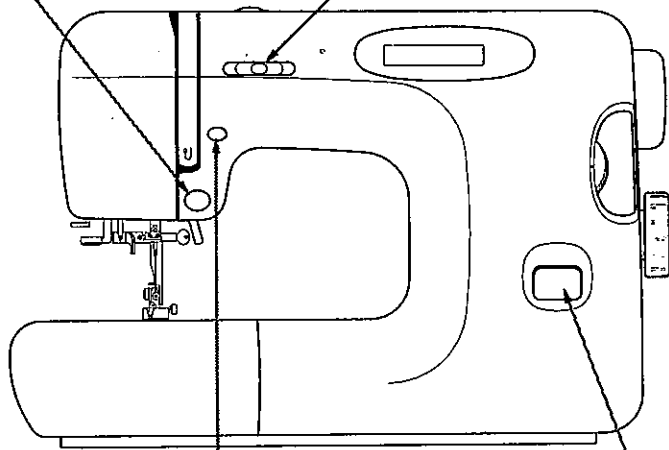
ぬい始めはゆっくり動き、スピードコントロールつまみでセットした速さになります。

※スタート・ストップボタンを使用するときは、フットコントローラーを外してください。

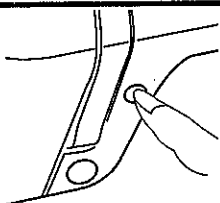
● スピードコントロールつまみ



このつまみを右に動かせば速く、左に動かすとゆっくりになります。



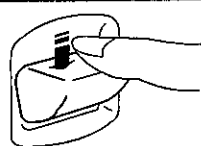
● 上下停針ボタン



ミシンが止まっているときボタンを押すと、針の位置を上にあるときは下に切りかえ、下にあるときは上に切りかえます。

※上位置で切りかえた状態でぬうと、ミシンを止めたとき、針は上位置で止まり、下位置に切りかえた状態でぬうと針は下位置で止まります。

● 返しぬいレバー



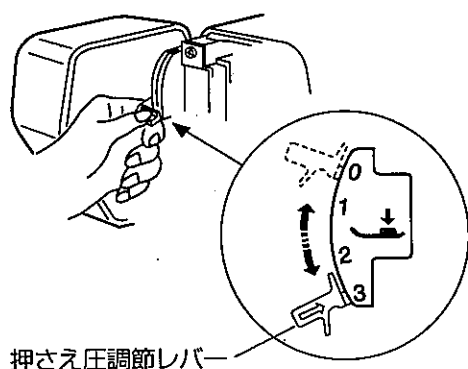
【停止中の返しぬい】

ミシンが動いていない状態でレバーを押すと、低速で返しぬいを始め、指をはなすと止まります。

【運転中の返しぬい】

ミシンが動いている状態でレバーを押すと、押している間は返しぬいをし、指をはなすと前進ぬいにもどります。

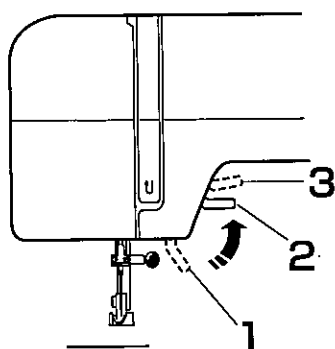
● 押さえ圧調節



押さえ圧調節レバー

- 普通ぬいのはきは、押さえ圧調節レバーを「3」に合わせます。
- 薄手の化繊地や伸縮性のある布地をぬうとき、およびアップリケなどぬい代部分が重なり合うものをぬうときには、押さえ圧調節レバーを「2」または「1」に合わせます。
- バッグのひも付けなど押さえをあげないで何回も方向をかえてぬうときは、押さえ圧調節レバーを「0」に合わせます。

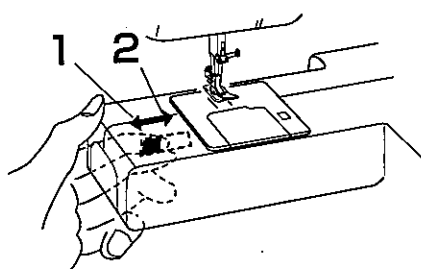
● 押さえのあげ方・さげ方



押さえ上げで、押さえのあげさげを行います。普通にあげた位置よりさらにあげることもでき、厚物の布を入れるときの補助リフトとして使用します。

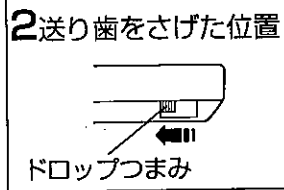
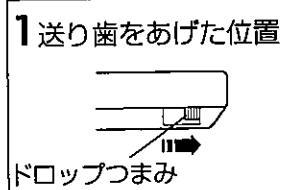
- 1 押さえ上げをさげた位置
ぬいのはきは、さげておきます。
- 2 普通にあげた位置
布の取り出しや、押さえの交換のときにあげます。
- 3 さらにあげた位置
補助リフトで、厚物の布などが入れやすくなります。

● 送り歯のさげ方

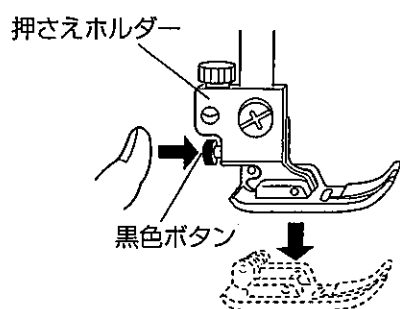


ボタン付け、しつけなどで送り歯をさげるときは、ドロップつまみを動かします。

※終わったら、ドロップつまみをもとの位置「送り歯をあげた位置」にもどしておきます。
送り歯は、ミシンが回転すると自動的にあがります。



●押さえの取りかえ方



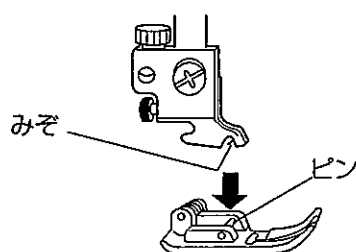
⚠ 注意



押さえの取かえは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

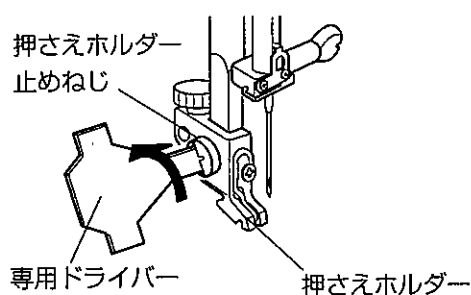
必ず実行 けがの原因になります。

- ① 押さえ上げをあげ、押さえホルダーの黒色ボタンを押して、押さを外します。



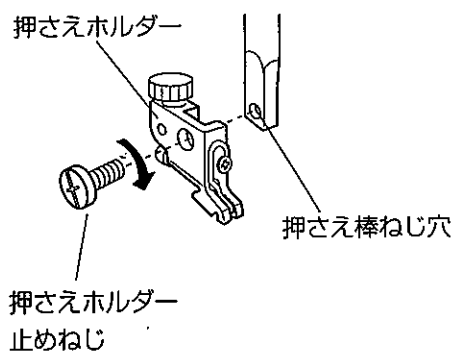
- ② 押さえのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて、押さえ上げを静かにさげ、押さえホルダーをさげます。

●押さえホルダーの外し方、付け方



【外し方】

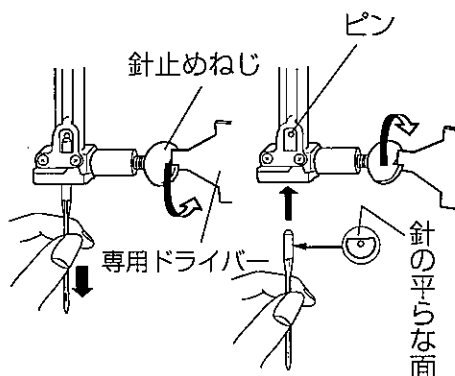
押さえ上げをあげ、押さえホルダーをあげます。押さえホルダー止めねじを左にまわして、外します。



【付け方】

押さえホルダーの穴と、押さえ棒のねじ穴を合わせ、押さえホルダー止めねじを差し込み、右にまわしてしっかり付けます。

●針の取りかえ方



⚠ 注意

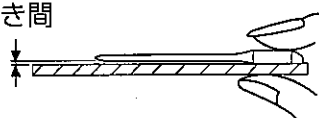


必ずプラグを抜く

針の取りかえは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてから行ってください。けがの原因になります。

- ① 針止めねじを手前に1～2回まわしてゆるめ、針を外します。
- ② 針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで差し込み、針止めねじをかたくしめます。

すき間



【針の調べ方】

針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すき間が針先まで平均に見えるのが良い針です。針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

●糸と針の選び方

布地の種類	糸の番号	針の番号
■薄地：薄地ジョーゼット、トリコット、ローンなど	ポリエステル90	9番～11番
■普通地：化繊布 さらさ木綿、サテン、ジャージー、一般服地など	絹50 綿60 ポリエステル、ナイロン50～90	11番～14番
	綿50	14番
■厚地：コート地、デニム、キルティング、コーデュロイなど	絹50 綿40～50 ポリエステル40～50	14番～16番
	ポリエステル20～30 綿30	16番

※一般に、薄地には細い糸と細い針を、厚地には、太い糸と太い針を使用します。上の表を目安に針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。

※原則として、上糸と下糸は同じものを使用してください。

※伸縮性のある布地や目とびしやすい布地などには、ニット用針（ジャンメブルー針）を使用すると防止効果があります。（市販SP針も同様の効果があります。）

⚠ 注意



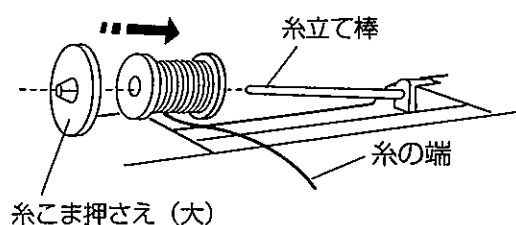
必ず実行

針は、家庭用ミシン針とご指定の上、お買い求めください。針の種類をまちがえるとけがの原因になります。

●下糸の準備

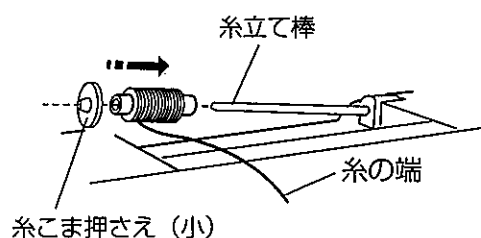
★糸こまの取り付け

【普通の糸こまのとき】



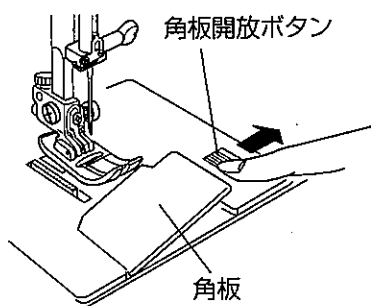
糸立て棒に糸の端が下から手前に出るようにして糸こまを入れ、糸こま押さえで糸こまを押さえます。

【小さい糸こまのとき】

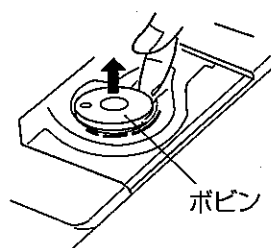


※小さい糸こまの場合は、必ず糸こま押さえ(小)を使ってください。

★ボビンの取り出し方

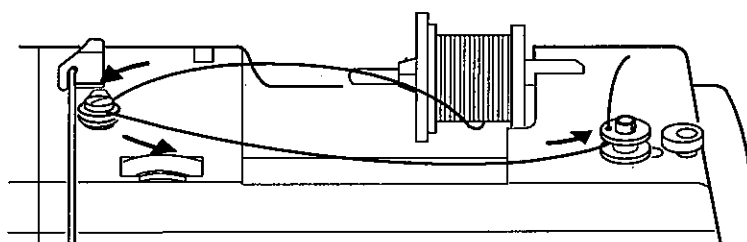


① 角板開放ボタンを右にずらして角板を外します。



② ボビンを取り出します。

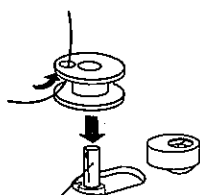
★下糸の巻き方



下糸巻き糸案内

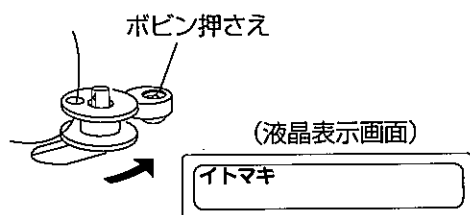


- ① 下糸巻き案内に巻きつけるようにかけます。



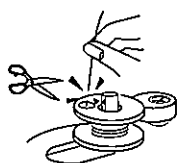
糸巻き軸

- ② ボビンの穴に内側から糸を通し、糸巻き軸に差し込みます。

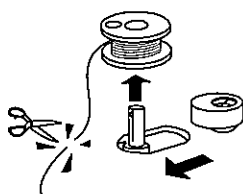


- ③ 糸巻き軸をボビン押さえの方に押しつけます。

※ 糸巻き軸を動かすと、「イトマキ」表示になります。



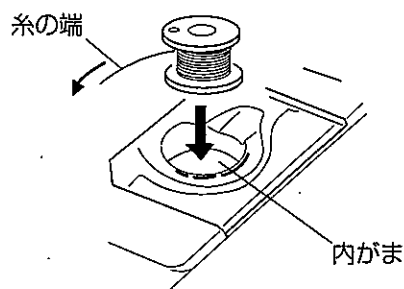
- ④ 糸の端をつまんだまま、巻き始めます。糸がボビンに2～3重ぐらい巻きついたら、ミシンを止めて穴のきわで糸を切ります。



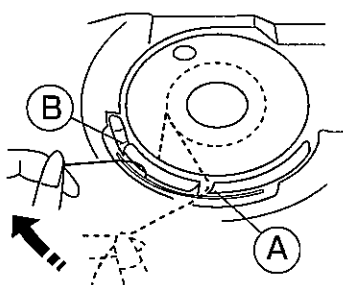
- ⑤ 再びミシンを動かし巻き終わったら、ミシンを止めます。糸巻き軸をもとにもどし、糸巻き軸よりボビンを外して糸を切ります。

※ 糸巻き軸は、必ずミシンを止めてから動かしてください。

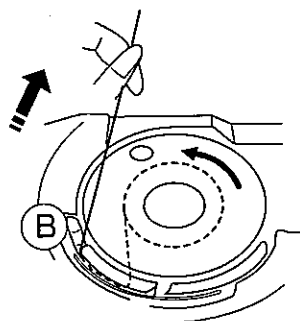
★ボビンのセット



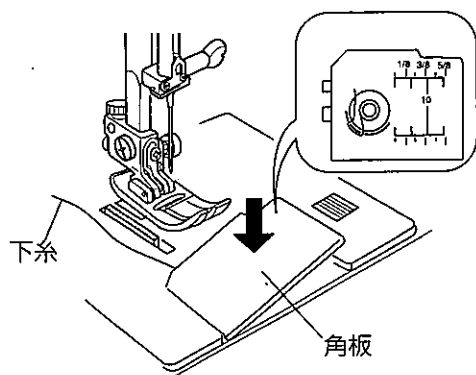
- ① 糸の端を矢印方向に出し、ボビンを内がまに入れます。



- ② 糸の端を引きながら、手前のみぞ(A) にかけます。糸を引きながら左へ移動させ、みぞの外とバネの間を通して、左側のみぞ(B) のところに出します。

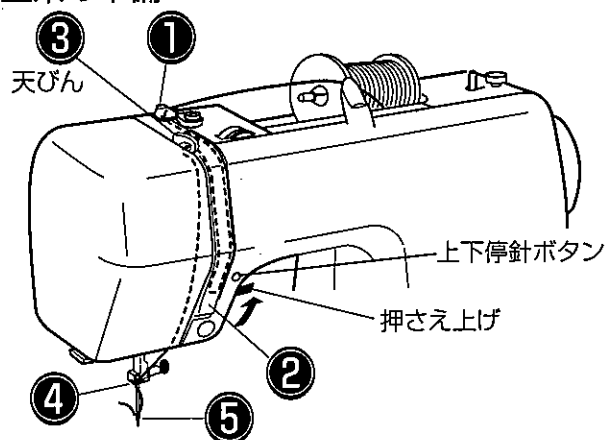


- ③ 糸を左側のみぞ (B) にかけるように、向こう側に出します。
- ※ 糸を引き出したとき、ボビンは反時計方向に回転します。時計方向に回転した場合には、ボビンの向きを上下逆に入れかえてください。



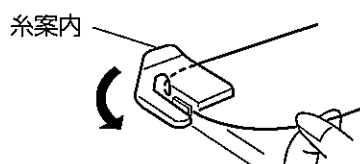
- ④ 下糸は、10cm くらい引き出して、角板を左側から合わせて付けます。

●上糸の準備

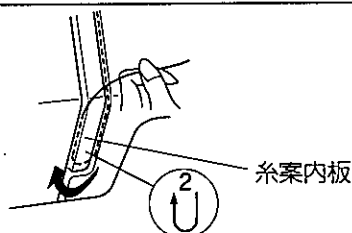


上下停針ボタン 押さえ上げ	【準備】 1 押さえ上げをあげます。 2 電源スイッチを入れ、上下停針ボタンを2度押して、針と天びんを上部にします。 3 電源スイッチを切ります。
-----------------------------	--

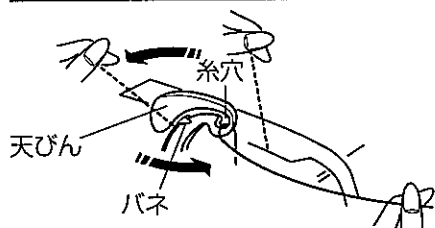
★上糸のかけ方



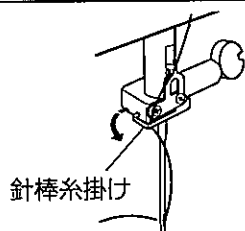
- ① 糸こまから引き出した糸を軽く押さえながら、糸案内の下に巻きつけるようにかけます。



- ② 糸案内板の下をまわして左上に引きあげます。

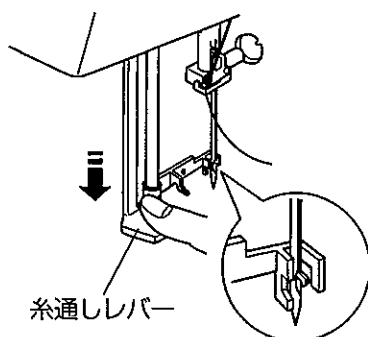


- ③ 天びんに右から後ろをまわして、バネを通過させて糸穴に入れ、まっすぐ下におろします。



- ④ 針棒糸掛けに左からかけます。
- ⑤ 針には手前から向こう側に糸通しを使って糸を通します。
(糸通しの使い方は、14ページをごらんください。)

★糸通しの使い方



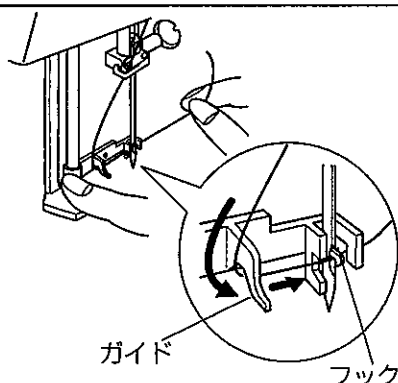
⚠ 注意



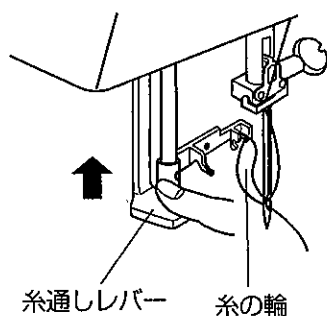
禁止

ミシンが動いているときに糸通しレバーは、さげないでください。けがの原因になります。

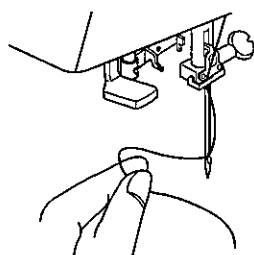
- ① 針をいちばん上にあげて、押さえをさげ、糸通しレバーを止まるまでいっぱい引きさげます。フックが針穴に入ります。



- ② 糸を左側からガイドとフック にかけます。



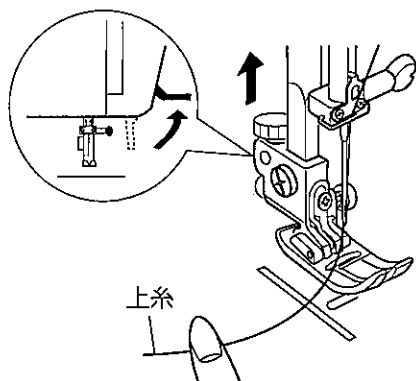
- ③ 糸通しレバーを静かにもどすと、糸の輪が引きあげられます。



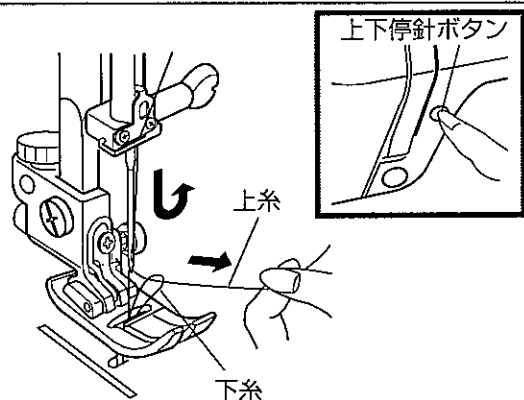
- ④ 糸の輪を糸通しから外し、針穴から端を引き出します。

※針は11番～16番、およびジャノメブルー針が使えます。
糸は50番～90番が使えます。

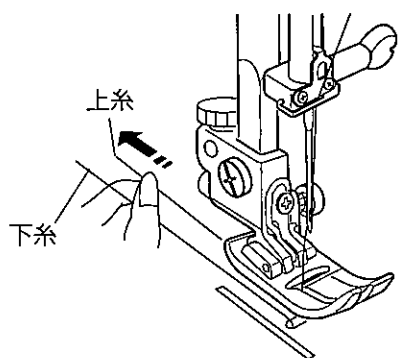
★下糸の引き上げ方



- ① 押さえをあげ、糸の端を指で押さえておきます。

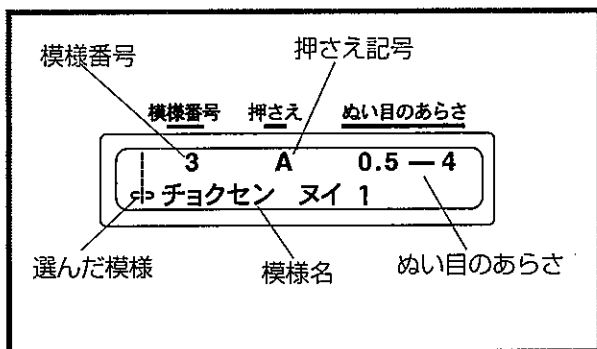


- ② 電源スイッチを入れ、上下停針ボタンを2度押して、針をあげます。上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。電源スイッチを切ります。



- ③ 上糸と下糸を押さえの下にして、後ろへそそえて10cmくらい出します。

●模様の選び方



模様選択ダイヤルをまわすと、選んだ模様が液晶表示画面に表示されます。

模様番号、標準的な押さえ記号、ぬい目のあらしを表示します。

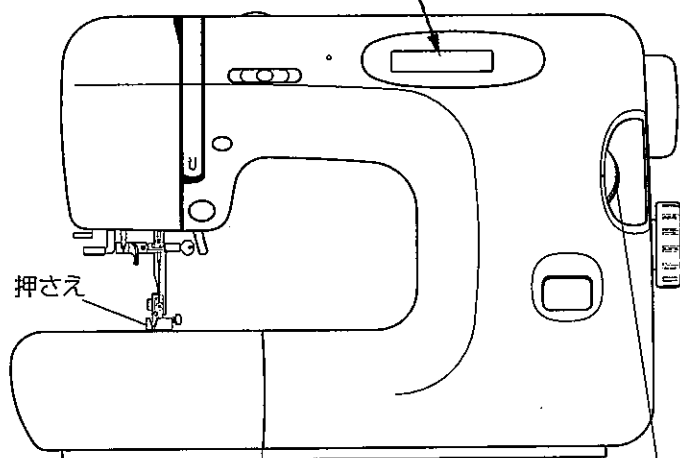
⚠ 注意



必ず実行

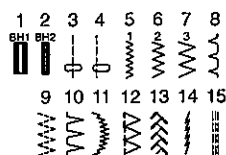
模様を選ぶときは、必ずミシンを止め、はずみ車を手前にまわして、針を布からあげてください。

けがや故障の原因になります。



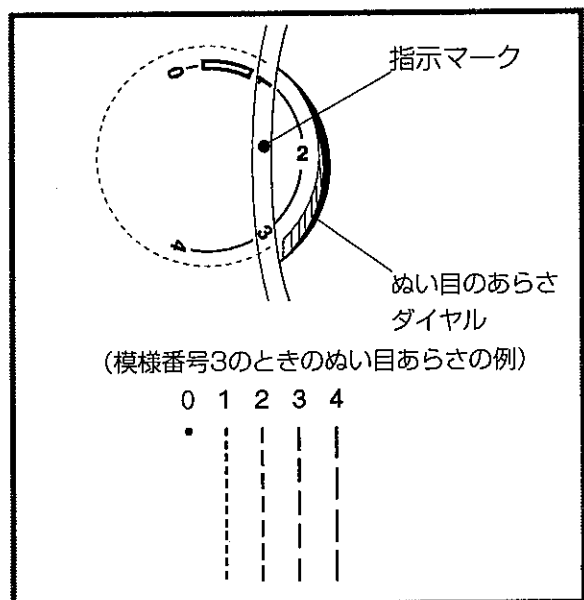
模様選択ダイヤル

このダイヤルをまわして模様を選びます。



ぬい目のあらしダイヤル

●ぬい目のあらし調節



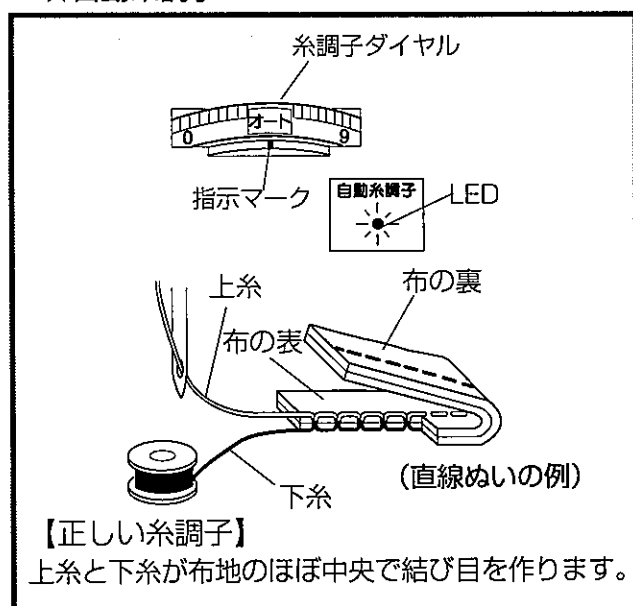
ぬい目のあらしダイヤルをまわし、数字を指示マークに合わせます。

大きい数字に合わせるほど、あらいぬい目になります。

☐の位置は、ボタンホールや密着ぬいのに合わせます。

●糸調子のとり方

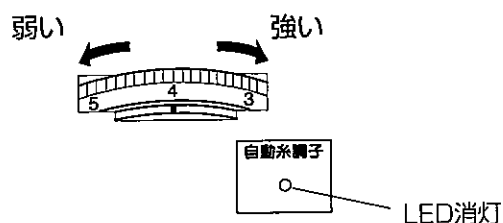
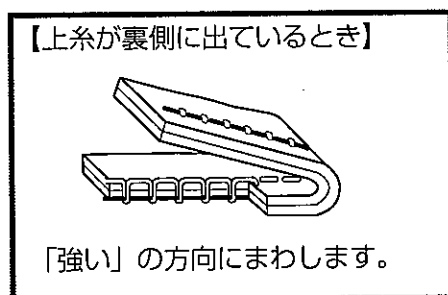
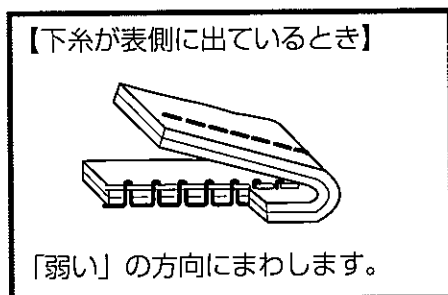
★自動糸調子



通常、糸調子ダイヤルの「オート」を指示マークに合わせると（自動糸調子LEDが点灯します。）、普通のぬいのときにバランスよくぬえる糸調子に自動セットされます。

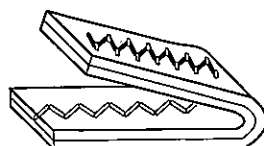
★マニュアル糸調子

布や糸によって、糸調子がうまくとれない場合は、下図のように糸調子ダイヤルをまわして、調節してください。（自動糸調子LEDは、消灯します。）



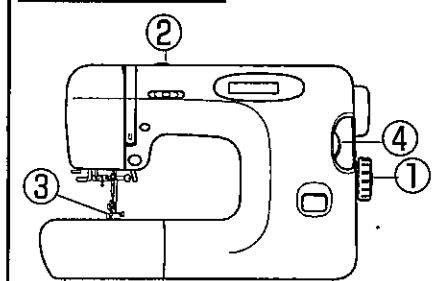
■ジグザグぬいの糸調子

ジグザグぬいの場合は、直線ぬいのときより上糸調子をやや弱めにして、上糸が布の裏側に少し出るようにしますと、きれいにぬえます。



直線ぬい

ミシンのセット

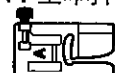


- ① 模様番号
- ② 糸調子
- ③ 押さえ

④ ぬい目のあらかさ

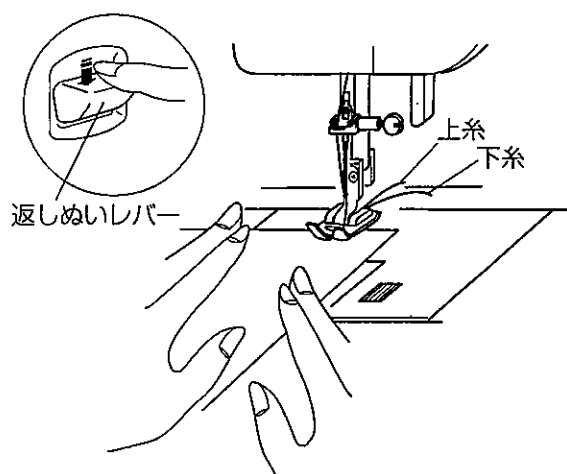
3 (中) または 4 (中)
オート

A: 基本押さえ



0.5 ~ 4

●ぬい始め

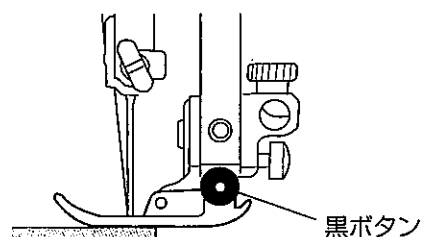


上糸と下糸を押さえの下を通し、向こう側に引き出し、押さえをさげてぬい始めます。

※ぬい始めのほつれ止めは、返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

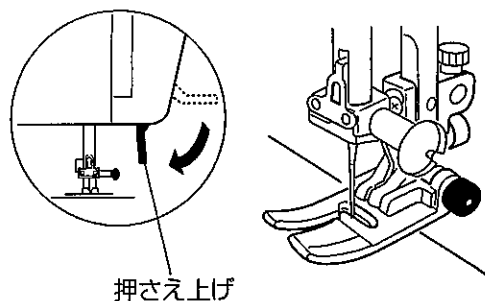
※F: サテン押さえと、R: ボタンホール押さえの場合は、上糸、下糸を横に引き出しておきます。

●厚手の布端のぬい始め



1 ぬい始めの位置に針をさし、基本押さえの黒ボタンを押し込みます。

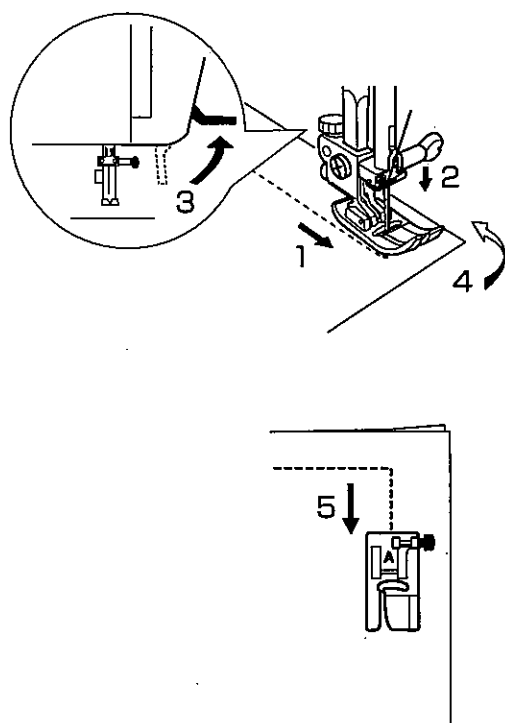
※ 黒ボタンを押した状態で押さえをさげると、押さえが水平に固定され、段部をスムーズにぬうことができます。ぬい始めると黒ボタンがもどり、押さえは、もとの自由に動く状態になります。



2 黒ボタンを押したままで押さえをさげます。

黒ボタンから手をはなし、ぬい始めます。押さえが完全に布の上ののると、黒ボタンの押し込みは自動的に解除されます。

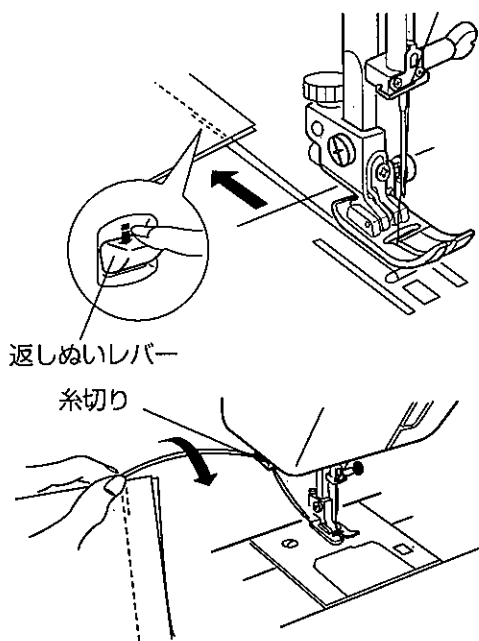
●ぬい方向のかえ方



- 1 布地の角まできたら、ストップします。
- 2 上下停針ボタンで、針を布に刺します。
- 3 押さえをあげます。
- 4 針を軸にして布地をまわし、ぬい方向にセットします。
- 5 押さえをさげて、ぬい始めます。

※ ぬい始めのとき、上下停針ボタンで針を下の位置にしてぬうと、ミシンを止めたとき、自動的に針は下位置で止まります。

●ぬい終わり

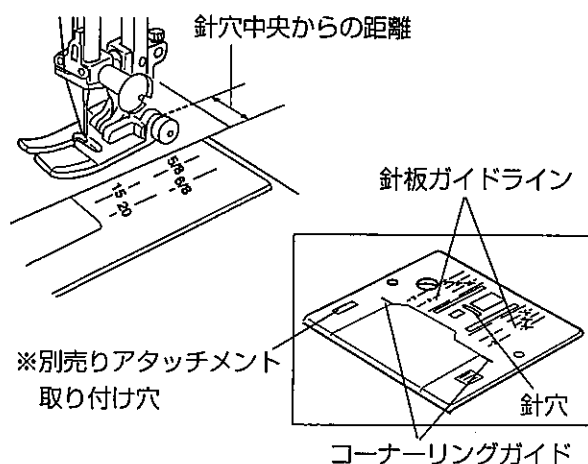


押さえをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

※ぬい終わりのほつれ止めは、返しぬいレバーを押しながら、数針返しぬいをします。

布を手前に返すようにして、糸切りで糸を切ります。

●針板ガイドラインの利用

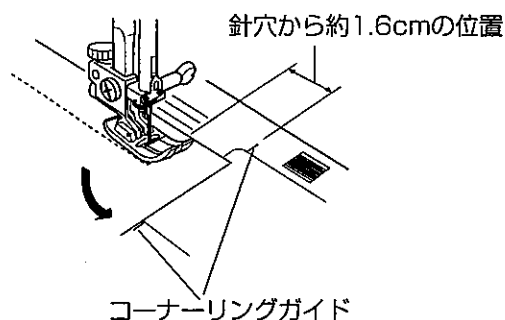


布端を針板ガイドラインに合わせてぬうと、ぬい幅がそろいます。

※数字は針穴中央からガイドラインまでの距離です。

数字	15	20	4/8	5/8	6/8
間かく(cm)	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

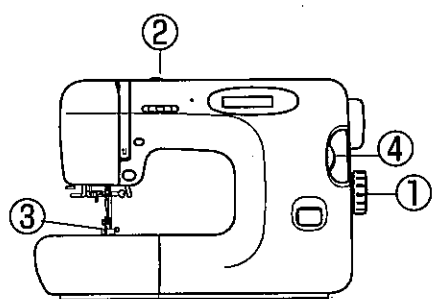
【コーナーリングガイド】



布端がコーナーリングガイドのところきたらミシンを止め、針を布に刺したまま押さえをあげ、布を回転させます。

ジグザグぬい

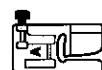
ミシンのセット



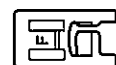
- ①模様番号
- ②糸調子
- ③押さえ

5 (), 6 (), 7 ()
オート

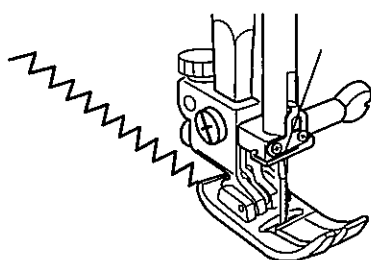
A: 基本押さえ



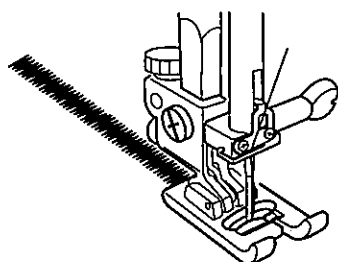
または、 F: サテン押さえ



④ぬい目のあらかさ 0.5 () ~ 4



布地のはぎあわせや、ふちかがり、アップリケなどのほか、飾りぬいにも広く用いられます。



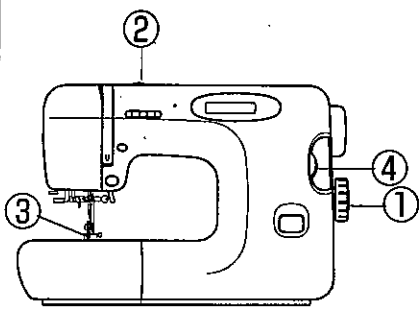
ぬい目のあらかさを”  ” に合わせると密着ぬいになります。

押さえは、F: サテン押さえを使用します。

伸縮性のある布（ニット、ジャージ、トリコットなど）には芯地を貼ると、きれいにぬえます。

ジグザグぬいたち目かがり

ミシンのセット



①模様番号 7 () または 12 ()
 オート
 C: たち目かがり押さえ



または、A: 基本押さえ

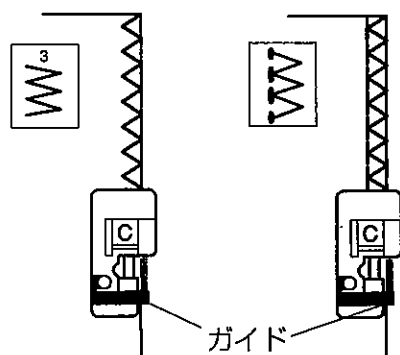


④ぬい目のあかさ 模様  のとき1.5~3
 模様  のとき、どの位置でもかまいません。

布地のたち目のほつれを防ぐぬい方です。

【ふちかがり押さえを使う場合】

布はしを押さえのガイドにあて、針が布はしいっぱいに落ちるようにしてぬいます。



⚠ 注意

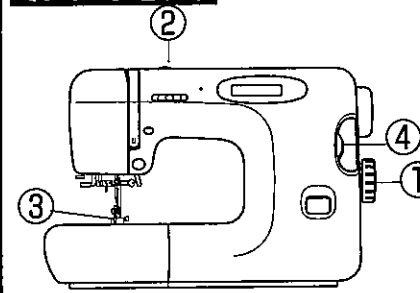


必ず実行

C: たち目かがり押さえは、必ず模様 () と () だけにお使いください。ほかの模様では、針が押さえにあたり危険です。けがの原因になります。

トリコットぬいたち目かがり

ミシンのセット



①模様番号 9 ()
 オート
 A: 基本押さえ

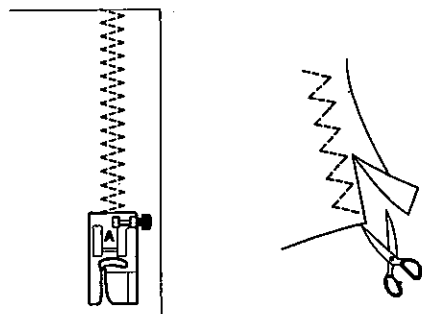


④ぬい目のあかさ 0.5 ~ 1

ほつれやすい布、伸縮性のある布地のたち目のほつれを防ぐぬい方です。

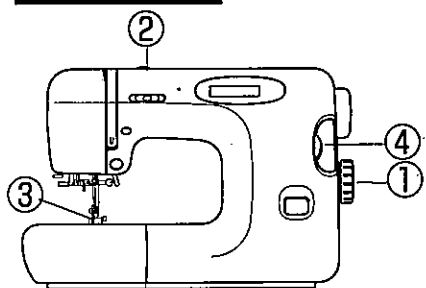
ぬい代を少し多めにとってぬい、余分なところをぬい目近くで切り落とします。

ぬい目を切らないように注意してください。



直線三重ぬい

三シンのセット

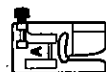


- ①模様番号
②糸調子
③押さえ

15 ()

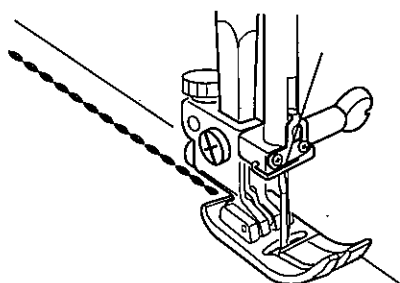
オート

A: 基本押さえ



④ぬい目のあらさ

どの位置でもかまいません。

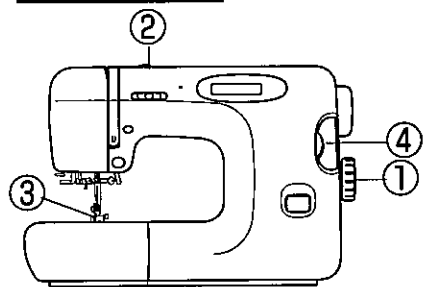


伸び縮みがきき、布地を伸ばしてもぬい糸は切れません。また非常に強いぬい目です。

ジャージ、メリヤスなどの伸縮性布地や力がかかってほつれやすい部分、デニムなどの丈夫な布地のぬい合わせに最適です。

伸縮ぬい

ミシンのセット

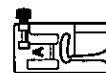


- ①模様番号
②糸調子
③押さえ

14 ()

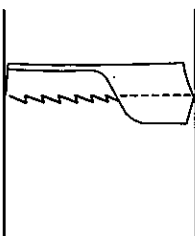
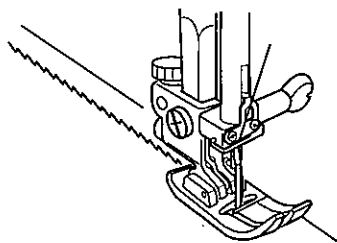
オート

A: 基本押さえ



④ぬい目のあらさ

どの位置でもかまいません。

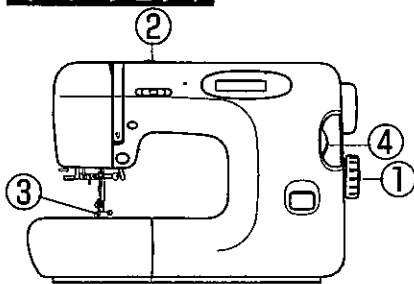


布が伸びても糸が切れにくい伸縮性のあるぬい
目です。

直線状なのでぬい代を割ることができま、ニット、トリコットなどのぬい合わせに利用します。

ボタンホール

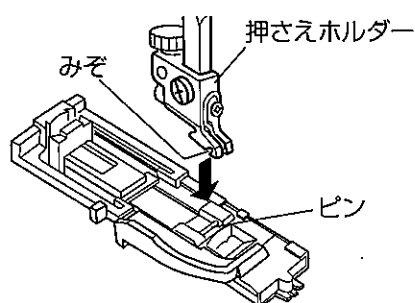
ミシンのセット



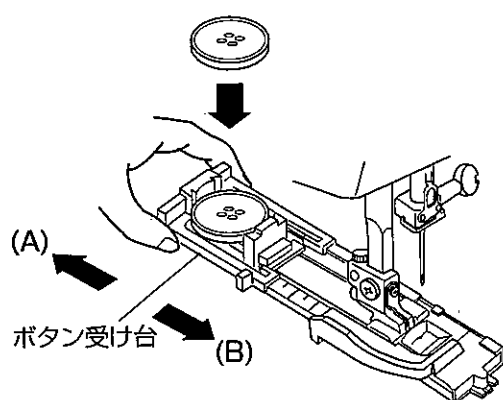
①模様番号	1 () 幅大または 2 () 幅小
②糸調子	オート
③押さえ	R: ボタンホール押さえ
④ぬい目のあらかさ	0.5 () ~ 1



- ※ ボタンホールの長さは、使用するボタンをR: ボタンホール押さえのボタン受け台にはさみ込むと、自動的に決まります。
- ※ ボタンの直径が1.0~2.5cmまでボタンホールができます。
- ※ めうものと同じ布で試しぬいをして、ミシンのセットを確かめましょう。
- ※ 伸縮性のある布には、裏に紙などをあててぬいますと、布の伸び縮みを防ぐことができます。紙はぬい終わったら取り除きます。

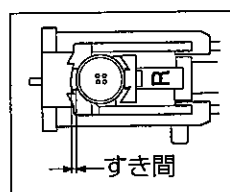


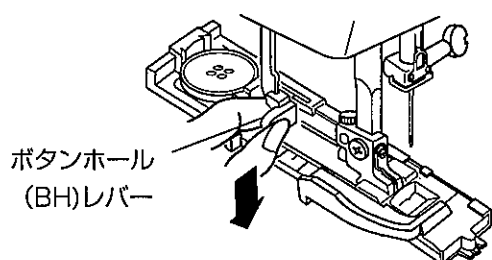
- ① 押さえホルダーのみぞと押さえのピンをあわせ、押さえ上げで押さえホルダーをさげてセットします。



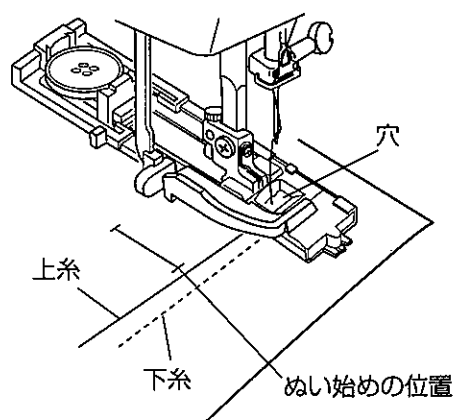
- ② ボタン受け台を(A)方向へ引き、ボタンを乗せて(B)方向にもどしてはさみ込みます。

- ※ ボタン受け台とボタンのすき間をあけて位置決めをすると、その分大きいボタンホールができます。



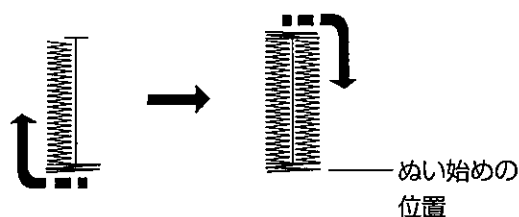
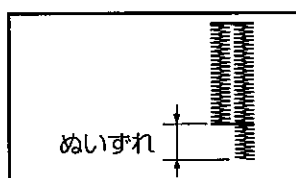
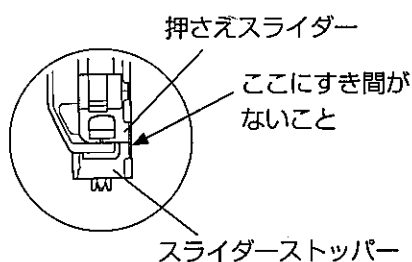


- ③ ボタンホール (BH) レバーを止まるまで
いっぱい引き上げます。

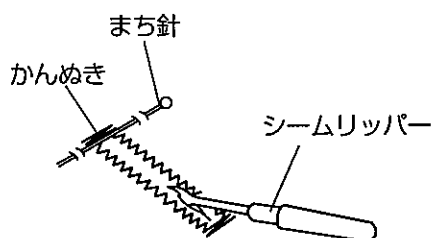


- ④ 押さえをあげて上糸を押さえの穴から下に
通し、横に引き出して下糸とそろえます。
布を入れ、ぬい始めの位置に針をさして、
押さえを下げます。

※ ぬい始めに、押さえスライダーとスライ
ダーストッパーの間にすき間がないことを
確認してください。
すき間があると、ぬい終わったときぬいず
れがおこることがあります。

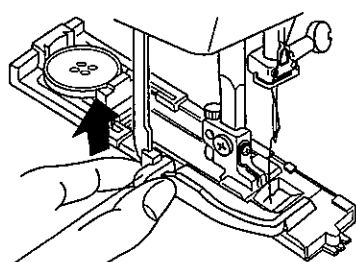
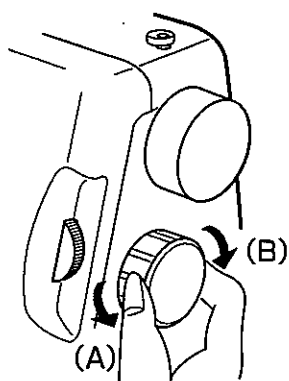


- ⑤ ミシンをスタートさせ、ボタンホールのぬ
い始めの位置にきたらミシンを止めます。



- ⑥ 押さえをあげて布を引き出し、上糸、下糸
を10cmくらい残して切ります。
下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上
糸と下糸を結びます。
片側のかんぬきの内側にまち針をわたして、シームリッパーでかがった糸を切らない
ように切り開きます。

【引き続きボタンホールをする場合】



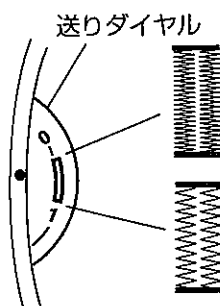
ボタンホール (BH)
レバー

一度模様選択ダイヤルを (A) または、(B) 方向にまわして、他の模様を選んだあと、ふたたびダイヤルをもどしてボタンホール模様を選びます。

この操作をすると次のボタンホールぬいのセットができたことになります。

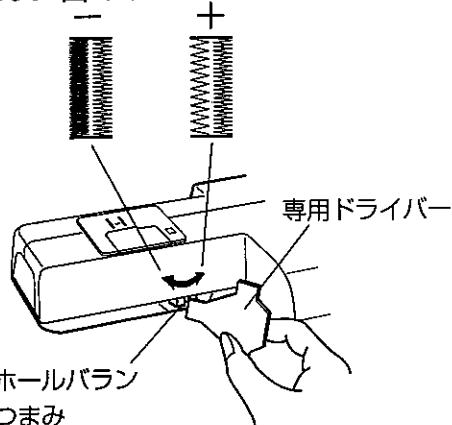
- ⑦ ボタンホールぬいが終わったら、ボタンホール (BH) レバーを止まるまでいっばいに押しあげてもどしてください。

【ぬい目のあらし調節】



ボタンホールのぬい目あらしは、送りダイヤルの  範囲で調節します。

【左右のぬい目あらしがそろっていないときの直し方】

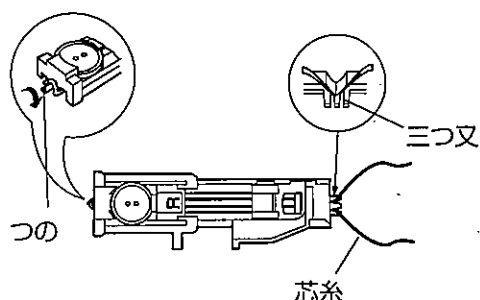


左側のボタンホールバランス調節つまみを「-」または「+」方向に動かして調節します。

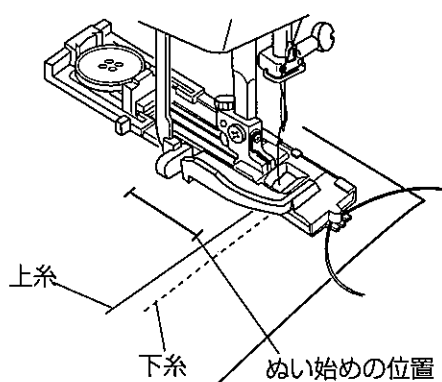
右側のぬい目とくらべ、左側のぬい目が細かいときには、「+」方向にボタンホールバランス調節つまみを動かします。

右側のぬい目とくらべ、左側のぬい目があらいときには、「-」方向にボタンホールバランス調節つまみを動かします。

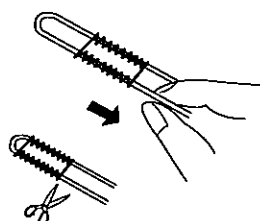
● 芯入りボタンホール



- ① R: ボタンホール押さえを押さえホルダーにセットして、芯糸の輪を押さえの後ろ側にあるつのにかけ、押さえの下から手前に平行になるように引きだし、前側の三つ又にはさみます。



- ② 上糸と下糸を横に引き出してそろえます。ぬい始めの位置に針をさして押さえをさげます。ミシンをスタートさせて、ボタンホールの手順と同じようにぬいます。

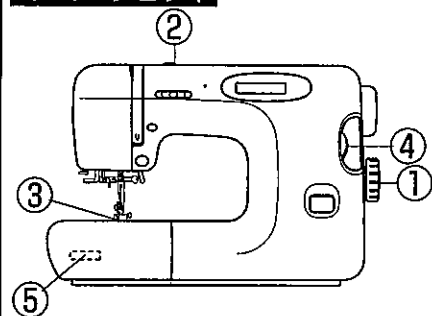


- ③ 左側の芯糸を引いて、たるみをなくし余分な糸を切ります。

※ 穴のあけ方は、25 ページをごらんください。

ボタン付け

ミシンのセット



①模様番号

②糸調子

③押さえ

④ぬい目のあらさ

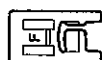
⑤ドロップつまみ

5 ()、6 ()、7 ()

ボタン穴の幅に合った模様を選びます。

オート

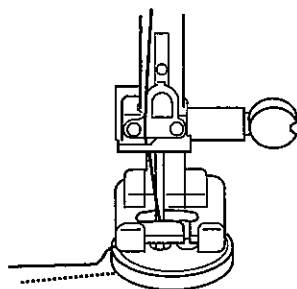
F: サテン押さえ



どこの位置でもかまいません。

送り歯をさげます。

(送り歯のさげ方は7ページをごらんください。)

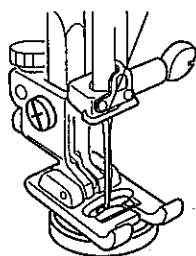


① はずみ車を手前にまわして、針が左にきたときボタンの左の穴におりにします。

② ボタンの左右の穴が真横にくるようにして、押さえをさげます。

③ はずみ車を手前にまわして針がボタンの左右の穴に入ることを確かめます。

④ 10針ぐらいぬいたらミシンを止めます。



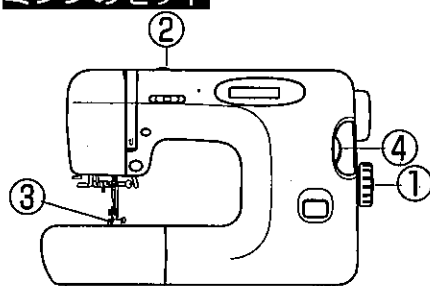
⑤ 押さえをあげて、布を引き出し上糸と下糸を20cmくらい残して切ります。ぬい終わりの下糸を引いて、上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。

※ ぬい始めの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。

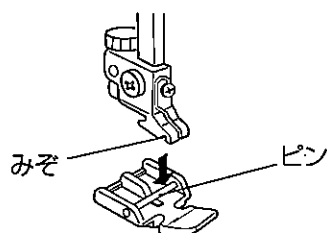
⑥ ぬい終わったら、ドロップつまみをもとにもどし、送り歯をあげます。

ファスナー付け

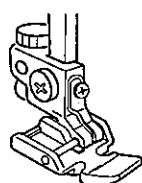
ミシンのセット



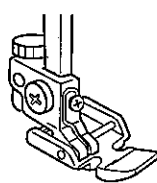
- ①模様番号 3 (中)
 ②糸調子 オート
 ③押さえ E: ファスナー押さえ
 ④ぬい目のあらかさ 1~2



【1】



【2】



⚠ 注意

E: ファスナー押さえは、必ず模様番号 3 (中) だけに使用してください。ほかの模様では、針が押さえにあたり、けがの原因になります。

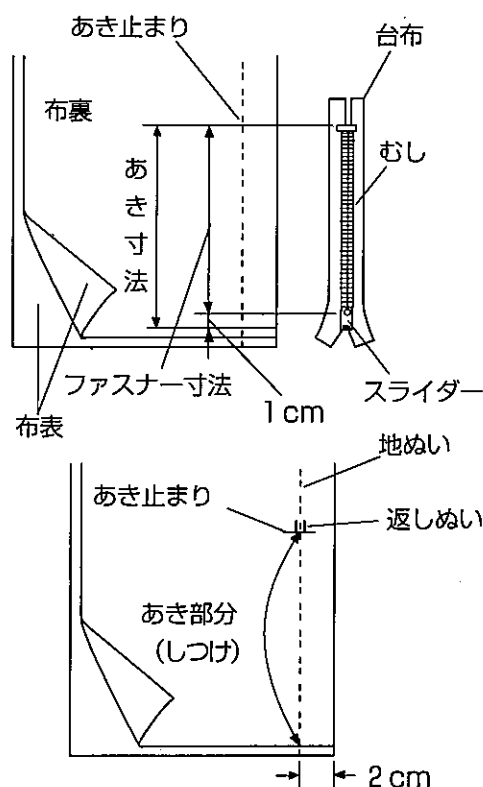
【ファスナー押さえの付け方】

左側をぬうときは、押さえホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。

右側をぬうときは、左側にセットします。

【1】 左側をぬうとき

【2】 右側をぬうとき



【準備】(例) 左脇あき

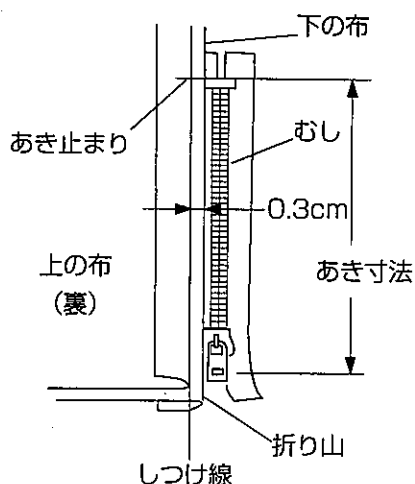
① ファスナーのあき寸法を確かめます。あき寸法はファスナー寸法に1cm プラスした寸法です。

② 地ぬいとしつけをします。

A: 基本押さえを取り付け、布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。あき部分は、しつけをします。

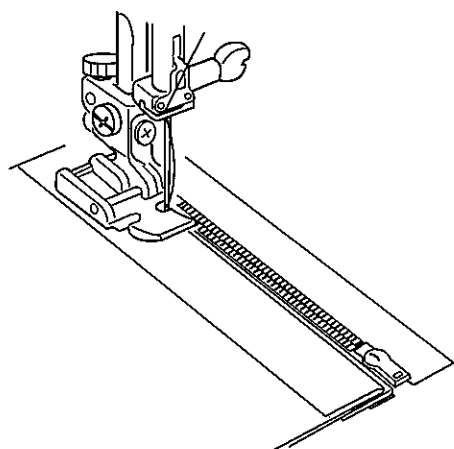
しつけは、押さえ圧「0」、送り歯をさげ、上下停針ボタンを2度押して1針ぬい、ぬい目をつまんで、布を向こう側に手で送りしつけをします。

※ しつけが終わったら、押さえ圧「3」、送り歯をあげます。

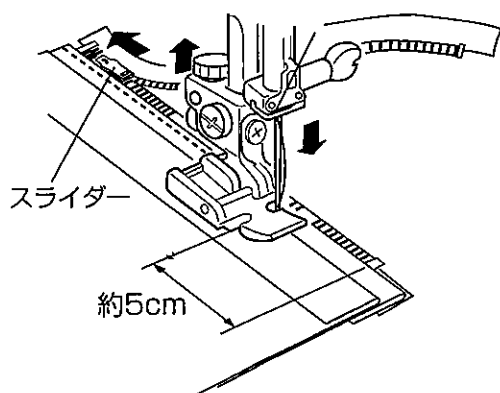


【ぬい方】

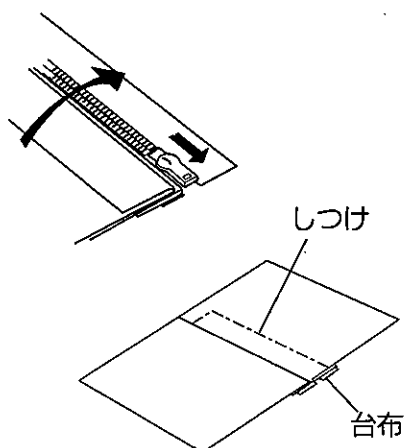
- ① ぬい代を割り、下の布のぬい代を0.3cm出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。



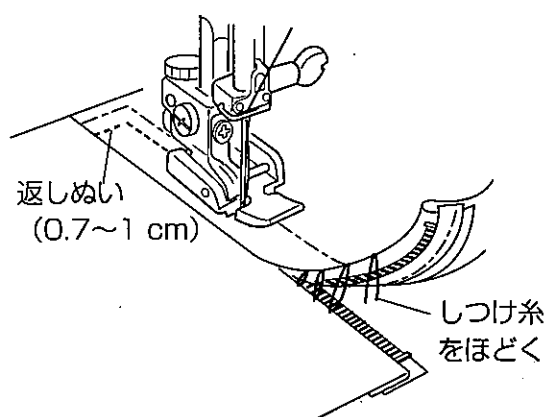
- ② 押さえホルダーをファスナー押さえの右側にセットして、むしのきわに押さえの端をあてて、あき止まりからぬいます。
- ※ ぬい始めのほつれ止めは、数針返しぬいをします。



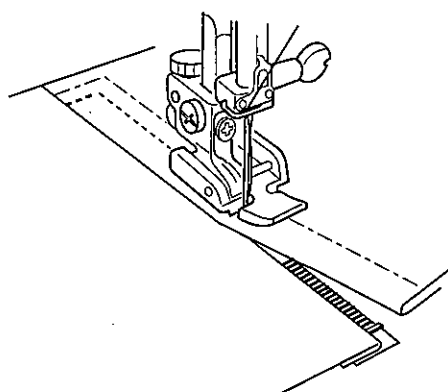
- ③ ファスナーの端から5cmほど手前でミシンを止め、針を布にさします。押さえをあげてスライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえをさげて残りの部分をぬいます。
- ※ ぬい終わりのほつれ止めは、数針返しぬいをします。



- ④ ファスナーをとじ、スライダーを上にあたおし、上の布をファスナーの上にかぶせます。かぶせた布と台布をしつけで止めます。



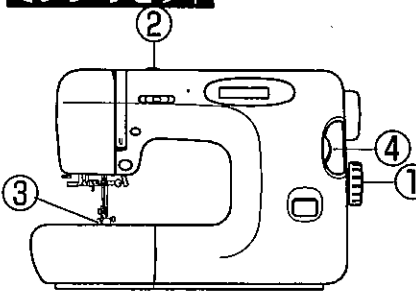
- ⑤ 押さえホルダーをファスナー押さえの左側につけかえ、上の布のあき止まりを(0.7~1cm)返しぬいします。布の向きをかえ、むしのきわに押さえの端をあててぬいます。ファスナーの上側を5cmほど残したところで止め、はずみ車をまわして針をさげ、針を布にさしたままで押さえをあげて、準備②でぬったしつけ糸をほどきます。

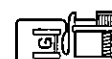


- ⑥ スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえをさげて残りの部分をぬいます。ぬい終わったら、手順④でぬったしつけ糸をほどきます。

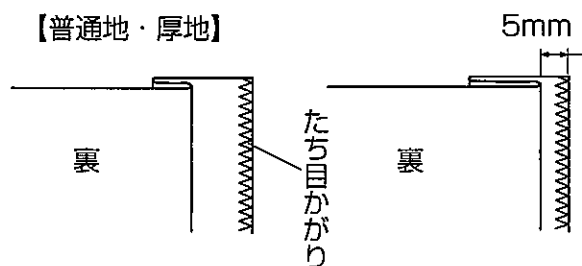
くけぬい (まつりぬい)

ミシンのセット



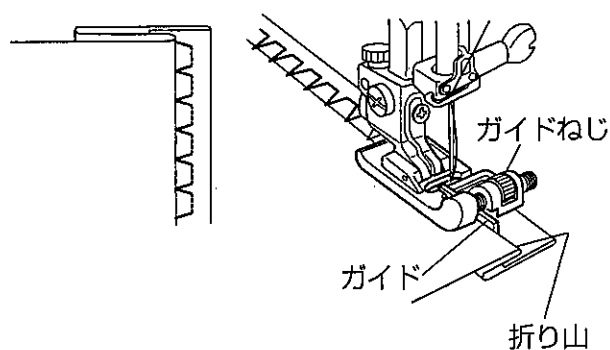
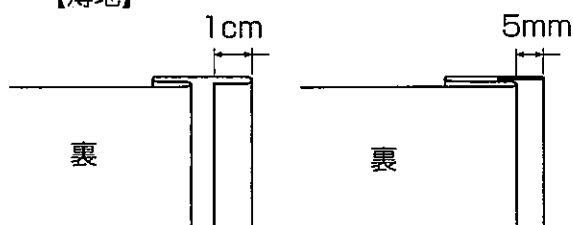
①模様番号 8 ()
 ②糸調子 オート
 ③押さえ G:くけぬい押さえ 
 ④ぬい目のあかさ 1 ~ 3

【普通地・厚地】



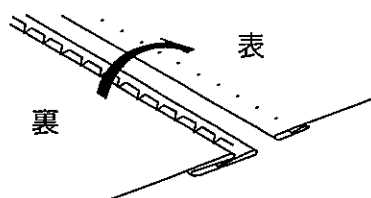
① 布を図のように折ります。

【薄地】



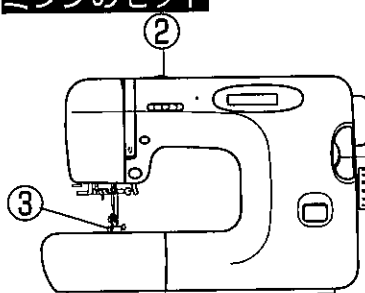
② 針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて、押さえをさげます。ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針が折り山から外れないようにぬいます。

③ ぬい終わったら布を表に返します。

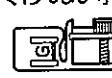


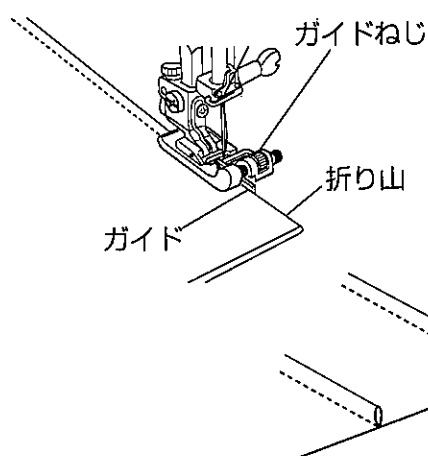
ピンタック

ミシンのセット



①模様番号 3 (中) または 4 (中)
 ②糸調子 オート
 ③押さえ G: かけぬい押さえ
 ④ぬい目のあらかさ 1 ~ 2

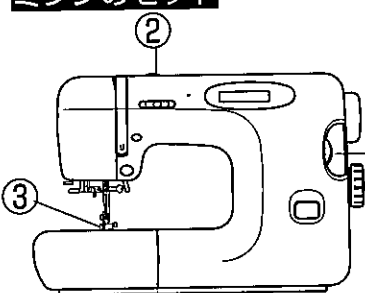




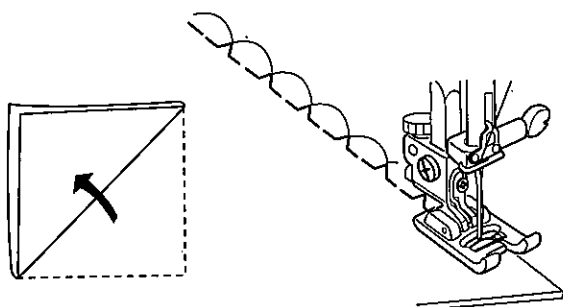
はずみ車を手前にまわして、針が折り山より
 0.1~0.2cm内側におりるように布を置いて、
 押さえをさげます。
 ガイドねじをまわしガイドを折り山に合わせて
 ぬいます。

シェルタック

ミシンのセット



①模様番号 10 (W)
 ②糸調子 6~8
 ③押さえ F: サテン押さえ
 ④ぬい目のあらかさ 2 ~ 3

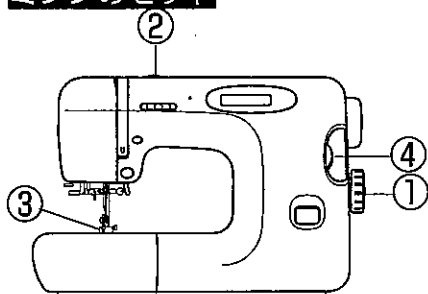


布をバイアスに二つ折りにします。
 針が右にきたとき布の折り山のきわにおりるよ
 うにしてぬいます。

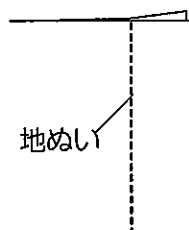
※糸調子は試しぬいをしてシェルタックの山が
 きれいになるように調整します。

パッチワーク

ミシンのセット

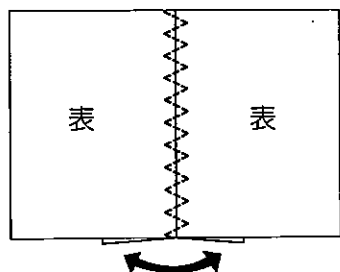


- ①模様番号 9 ()
 ②糸調子 オート
 ③押さえ A:基本押さえ 
 ④ぬい目のあかさ 1 ~ 3



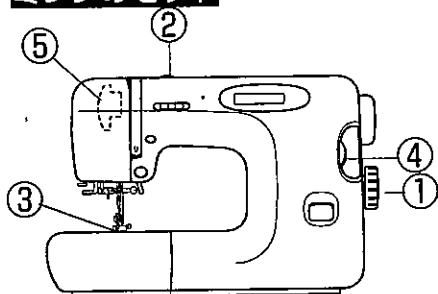
布を中表に合わせ、地ぬいをしてぬい代を割ります。

布の表から地ぬいの線を中心にしてぬいます。



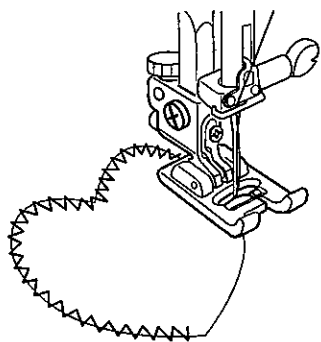
アップリケ

ミシンのセット



- ①模様番号 6 (), 7 ()
 ②糸調子 オート
 ③押さえ F:サテン押さえ 
 ④ぬい目のあかさ 0.5 () ~ 4
 ⑤押さえ圧 「2」

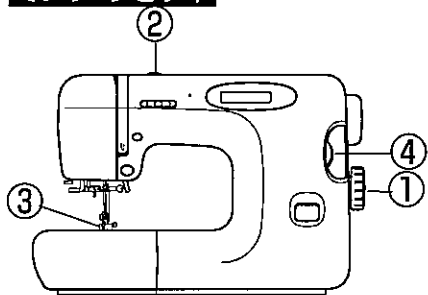
アップリケ布を糊づけするか、しつけで止めます。
 アップリケの布端をたち目かがりと同じ要領でぬい付けます。



※ カーブのところや方向転換するところでは、ミシンを止め、針をアップリケの布の外側にさしたままで方向をかえると、きれいに仕上がります。

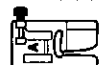
キルティング

ミシンのセット

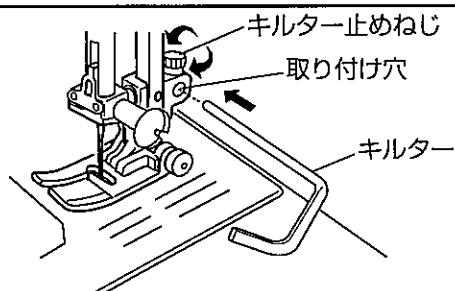


- ①模様番号
- ②糸調子
- ③押さえ

3 (中) または 4 (中)
オート
A: 基本押さえ

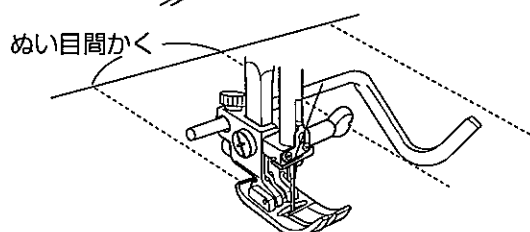


- ④ぬい目のあらかさ 1 ~ 3



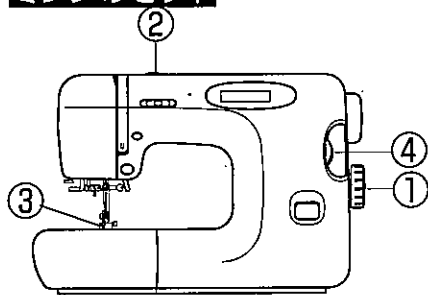
※キルターは、前にぬったぬい目をたどるのに使います。

キルター止めねじをゆるめて、キルターを取り付け穴に入れ、ぬい目の間かくに合わせて、キルター止めねじをしめます。



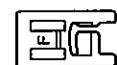
スラップ

ミシンのセット

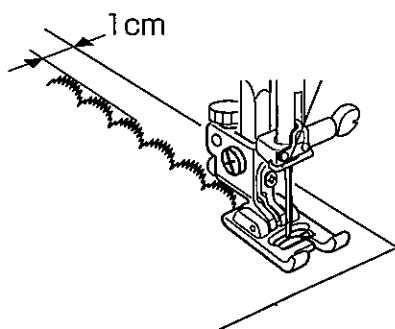


- ①模様番号
- ②糸調子
- ③押さえ

11 ()
オート
F: サテン押さえ



- ④ぬい目のあらかさ 0.5 ~ 2



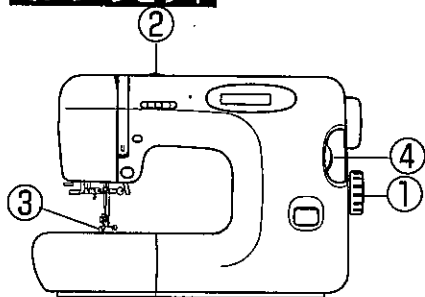
布の表から、布端を1cmくらい残してぬいます。糸を切らないように、外側の布を切り落とします。

ぬい目のあらかさを調節するとき、ぬい目あらかさが細かすぎると、つまることがありますので、試しぬいをして確認してください。

※布が縮むときは、布の下に紙を敷くか、芯地を貼るときれいに仕上がります。

スーパー模様ぬい

ミシンのセット



①模様番号

12 (), 13 ()

14 (), 15 ()

②糸調子

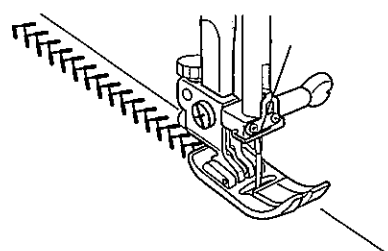
オート

③押さえ

A : 基本押さえ



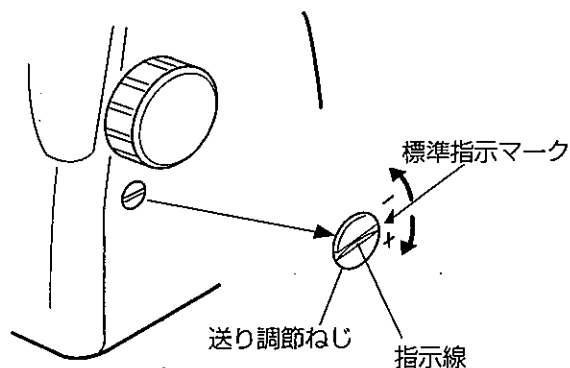
④ぬい目のあらかさ どここの位置でもかまいません。



布が前後するので、ぬい目が曲がらないように注意してぬいます。

模様が整わないときには、「スーパー模様の形の整え方」をごらんください。

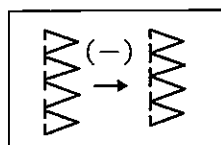
スーパー模様の形の整え方



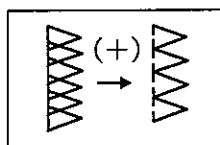
スーパー模様をぬっているときに形がくずれるようでしたら、送り調節ねじをまわしてきれいな模様が得られるように実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをしながら調節してください。

※標準指示マークと指示線が一致する位置が模様を正しくぬえる目安の位置です。

【例. 模様 】



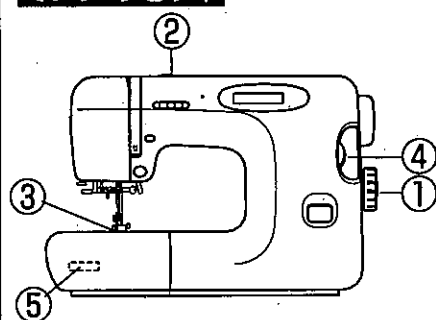
模様が伸びているときは、送り調節ねじを「-」方向にまわします。



模様がつまっているときは、送り調節ねじを「+」方向にまわします。

ししゅうぬい

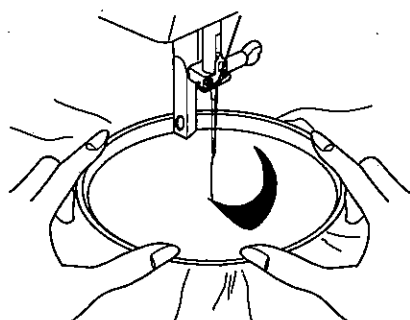
ミシンのセット



- | | |
|----------|--|
| ①模様番号 | 3 (中) |
| ②糸調子 | オート |
| ③押さえ | 外します
(押さえホルダーも外します。) |
| ④ぬい目のあらさ | どこの位置でもかまいません。 |
| ⑤ドロップつまみ | 送り歯をさげます。
(送り歯のさげ方は7ページを
ごらんください。) |

- ※ 糸調子ダイヤルは、布の裏側に上糸が少し出るくらいにゆるくします。
- ※ 模様は、あらかじめ布の上にえんぴつかチョークで印を付けてください。
- ※ ししゅう枠は標準付属品には含まれておりません。

【ぬい方】



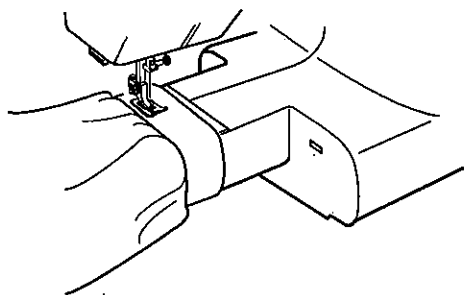
⚠ 注意

接触禁止

動いている針に手を近づけないでください。
けがの原因になります。

- ① 送り歯をさげます。
 - ② 布をししゅう枠にピンと張ります。
 - ③ 上糸の端を左手でつまみ、針をぬい始めの位置にさし、押さえ上げをおろします。
 - ④ はずみ車を手前にまわして針をあげ、上糸を引いて、下糸を布の上に引き出します。
 - ⑤ 左手の指先で上糸と下糸を押えて止めぬいをし、余分な糸を切ります。
 - ⑥ ししゅう枠を手で下に押しつけるようにし、ゆっくりぬいながら、針が布から抜けている間にししゅう枠を動かし、模様をぬいます。
- ※ ぬいが終わったら、送り歯をあげておきます。

フリーアームぬい



- 補助テーブルを取り外すだけでフリーアームミシンになります。
- そでぐちやすそなどのぬい、および、ふくろ物のくち端の始末に利用します。
- ※ 補助テーブルの取り外し方は4ページをごらんください。

ミシンのお手入れ

●かまと送り歯の掃除

⚠ 注意

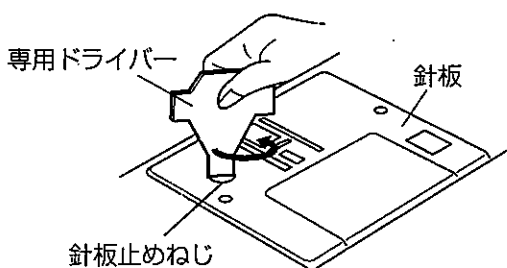


必ずプラグを抜く

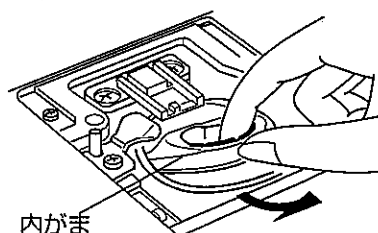
お手入れのときは必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。

説明されている箇所以外は分解しないでください。

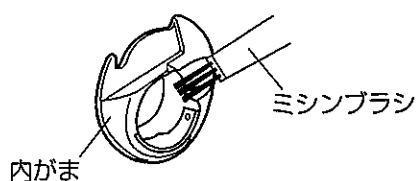
感電・けがの原因になります。



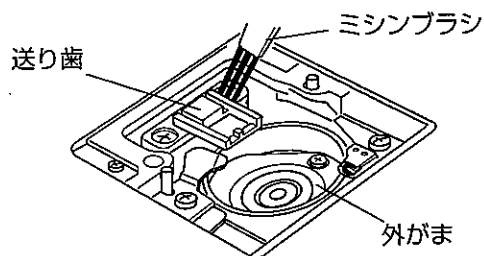
- ① 針と押さえを外します。
針板止めねじを外し、針板を外します。



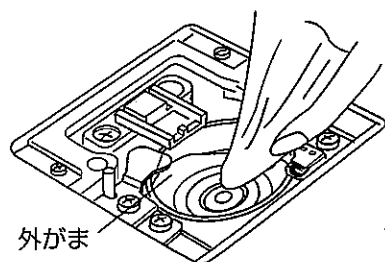
- ② ボビンを取り出し、内がまの手前を上へ引きながら外します。



- ③ 内がまをミシンブラシで掃除し、布切れで軽くふきます。



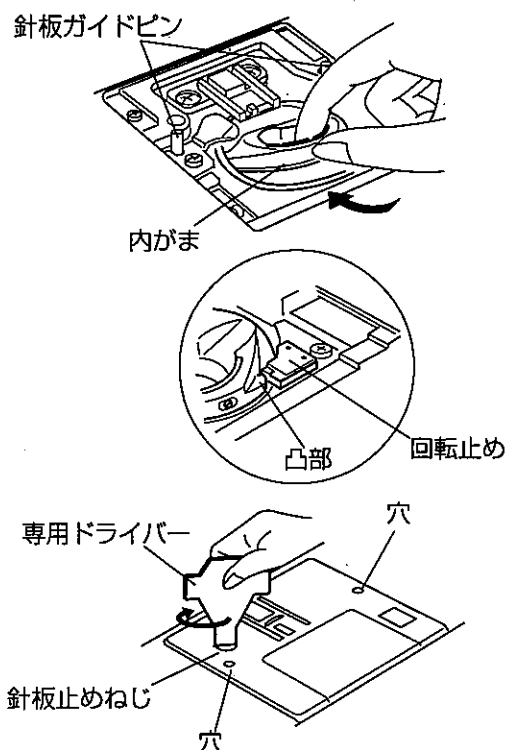
- ④ 送り歯のゴミをミシンブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。



- ⑤ 外がまの中央部を布切れで軽くふきます。

※ ブラシで掃除にくい乾いた糸くずやほこりは、電気掃除機などで吸い取ってください。

●内がまと針板の組み付け



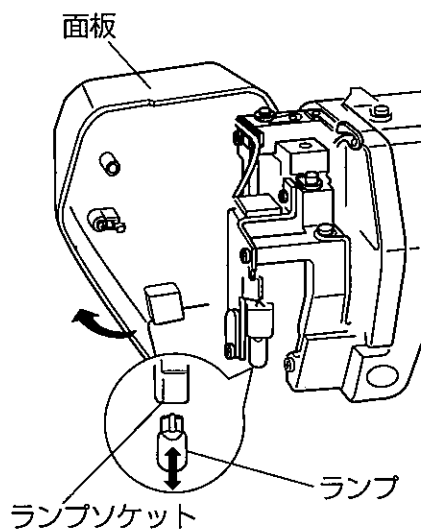
① 内がまを差し込みます。

② 内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。

③ ボビンを入れ、2箇所の針板ガイドピンに針板ガイドの穴を合わせ、針板止めねじをしめます。

※ お手入れが終わったら、忘れずに針と押さえを付けてください。

●ランプの取りかえ方



⚠ 注意



必ずプラグを抜く

長時間使用していると、ランプが熱くなりやけどをするおそれがあります。電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてランプが十分冷えてから交換してください。

面板を開け、ランプソケットからランプをそっと引き抜きます。

取り付けは、ランプソケットの穴に合わせながら、差し込みます。

※ランプの購入は、販売店へお問い合わせください。

ランプの定格は、12V5Wです。

定格と異なるランプは取り付けないでください。

ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	そ の 原 因	直し方
上糸が切れる。	1. 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の場所にかみついている。 2. 上糸調子が強すぎる。 3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4. 針の付け方がまちがっている。 5. めい始めに、上糸・下糸を押さえの下にそろえて引いていない。 6. めい終わったとき、布を手前に引いている。 7. 針に対して糸が太すぎるか、細すぎる。	13 ページ参照 17 ページ参照 9 ページ参照 9 ページ参照 18 ページ参照 20 ページ参照 9 ページ参照
下糸が切れる。	1. 下糸の通し方が、まちがっている。 2. 内がまの中に、ごみがたまっている。 3. ボビンにキズがあり、回転がなめらかでない。	12 ページ参照 38 ページ参照 ボビンを交換する
針が折れる。	1. 針のつけ方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 3. めい終わったとき、布を手前に引いている。 4. 布に対して針が細すぎる。	9 ページ参照 9 ページ参照 20 ページ参照 9 ページ参照
めい目がとぶ。	1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2. 布に対して針と糸が合っていない。 3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ニット用針を使っていない。 4. 上糸のかけ方がまちがっている。 5. 品質の悪い針を使用している。	9 ページ参照 9 ページ参照 9 ページ参照 13 ページ参照 針を交換する
めい目がしわになる。	1. 上糸調子が合っていない。 2. 上糸・下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にかみついている。 3. 布に対して針が太すぎる。 4. 布に対してめい目があらずすぎる。	17 ページ参照 12,13 ページ参照 9 ページ参照 めい目を細かくする
布送りがうまくいかない。	1. 送り歯に糸くずがたまっている。 2. めい目が細かすぎる。 3. 送り歯があがっていない。	38 ページ参照 めい目をあらくする 7 ページ参照
めい目に輪ができる。	1. 上糸調子が弱すぎる。 2. 糸にくらべて針が細すぎる。	17 ページ参照 9 ページ参照
ミシンがまわらない。	1. 電源のつなぎ方がまちがっている。 2. かまに、糸やごみがたまっている。 3. 糸巻き軸が、下糸を巻いたあと、もとにもどっていない。(糸巻き状態になっている)	5 ページ参照 38 ページ参照 11 ページ参照
音が高い。	1. かまの部分に、糸くずがまき込まれている。 2. 送り歯に、ごみがたまっている。	38 ページ参照 38 ページ参照
模様を整わない。	1. 送り調整ねじ位置が合っていない。	36 ページ参照

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 無料修理保証期間内（お買い上げ日より1年間です）およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後8年間の基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 使用説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスを行います。
ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
 - 1) 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - 2) 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - 3) お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - 4) お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷したとき。
 - 5) 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は
下記にお申しつけください。

蛇の目ミシン工業株式会社

〒104-8311 東京都中央区京橋3-1-1

TEL. 03-3277-2200（お客様相談室）

（ 受付 月曜日～金曜日
9時～12時
13時～17時 ）

仕 様	
使用電圧	100V 50/60Hz
消費電力	55W（ランプ12V 5W）
外形寸法	幅42cmX奥行17cmX高さ30cm
重 量	7.2kg（本体）
使用針	家庭用 HA X 1
ぬい速度	毎分700針 フットコントローラー使用時 毎分820針

仕様および外観は改良のため
予告なく変更することがあり
ますのでご了承ください。

蛇の目マシン工業株式会社

〒104-8311 東京都中央区京橋3-1-1

751-800-845